

地震に備える

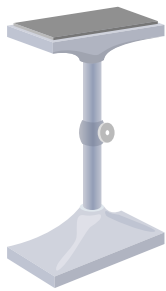
平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災では、死亡原因の約8割が住宅・建築物の倒壊などによる圧死と見られています。大地震はいつ起きてもおかしくないと言われており、南関東や東海を震源とする地震の発生が危ぶまれています。いざというときのため、日頃から災害に備えておきましょう。

1 家具を固定し 転倒・落下を防ぐ

就寝中に地震が起こると、転倒した家具の下敷きになったり、家具の上から大きなものが落ちてきたりします。そうして身動きが取れなくなると屋外に避難できなかった場合、火災などの2次災害に巻き込まれる危険が非常に大きくなります。家具の転倒を防止し、自分と家族への被害が最小限になるように日頃から安全対策について考えておくことが大切です。

たんす・本棚などはし字型金具やつっぱり棒などで固定し、衣類や本などの重いものは下に、軽いものは上に置くようにしましょう。

ホームセンターにはさまざまな種類の固定器具がそろっています。家具の特性に合わせた固定器具を選びましょう。



2 避難時の通路となる玄関や廊下には、家具や荷物を置かない

玄関や廊下に家具などの倒れやすいものを置くと、道をふさがれてしまい避難が困難になります。家具や荷物は置かず、広く開けておきましょう。



3 ブロック塀などの 倒壊防止

地震発生に伴いブロック塀や石積み擁壁などが倒壊すると、その下敷きとなり死傷者が発生したり、緊急車両の通行が妨げられ、避難や救援活動のために道路を通行するのに支障をきたします。

ひびが入っていないか、かたむいていないか、鉄筋が入っているか、控え壁があるか、基礎がしっかりしているかなどをチェックし、もし問題があれば早急に補強などを行う必要があります。

4 落下物の安全対策

室内では、大型の家具を固定するだけでなく、吊り下げ照明や時計、家電製品の固定も必要です。1本のコードでつるすタイプのものは、鎖と金具を使って数カ所止めるようにします。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで固定すると安心です。

5 非常用持ち出し品の準備

いざというときにすぐ持ち出せるようにリュックサックなどにまとめておきます。持ち出し品については、家族の構成に応じて必要なものを準備し、玄関近くに置きましょう。食糧や飲料水は最低3日分用意しておくようにしましょう。

▼非常用持ち出し品の例

食糧（乾パンや缶詰などの保存のきくもの）、飲料水（目安は1人1日3リットル）、携帯ラジオ、懐中電灯（予備電池）、現金（硬貨も）や通帳・印鑑、応急医療品（ばんそうこうや傷薬）、タオル、ヘルメット、地図、持病の薬、赤ちゃん用ミルク・おむつなど

6 家族で防災会議

地震が発生したときの家族の役割分担や連絡方法、集合場所などを事前に話し合っておきましょう。

災害用伝言ダイヤル171

大規模な災害発生時には災害用伝言ダイヤル171が稼働します。固定電話や携帯電話、公衆電話から利用でき、サービスの開始はテレビやラジオ、NTT東日本のホームページから通知されます。家族や友人の安否確認や連絡などに活用できる、便利な声の伝言板です。

※伝言の保存期間は48時間であり、通常の電話料金がかかります。

▼伝言の録音方法

171（音声の案内に従い）↓
1 ↓電話番号↓伝言を入れる

▼伝言の再生方法

171（音声の案内に従い）↓
2 ↓電話番号↓伝言を聞く

毎月1日は災害用伝言ダイヤルが体験利用できます。

※通常の電話料金がかかります。